

▼村の巡回 (六卷)

帝ネ芦屋現代映画

原作者  
脚色者  
監督者  
撮影者  
主演者  
武内英二郎氏  
福井英二郎氏

紹介  
「嬰兒殺し」の巡査のエピソードを見る様な物語である。山場は少いが無理がない點が取柄である。深川ひさし氏の監督は小品的に扱つてだらかな氣分を漂はして居る。正太郎と光江のラヴシーンも質朴の内に情味ある氣分を醸しだす。里見明氏の正太郎はこんな役は度々手がけて居るから無難であつた。森かね子嬢の光江は見違へる程よくなつた。スターの少くなかつた音屋映畫に取つて大切な人と云へよう。小島洋々氏の古河巡査は性格をはつきり見せて居る。大河慶三氏の源公は少し氣味が悪い。

山本緑葉 |

興行價値——小品映畫に近い映畫だから此方面の價値は豊かとは云へないが、警察筋には好意的な持たれる得點がある。(七月七日大阪音透劇場神戸相生座 京都キネマ俱樂部封切)